

そとば小町

URL	http://hdl.handle.net/10114/4933
-----	---

長生堂



後序

山陰先生文集卷之八
後序
先生文集卷之八
後序
先生文集卷之八
後序

らん 是月高懸任

乙のゆめとての盡く美

祇急結つてあをたふ

丘のちるま作 未詳

をすてふまはくは

もて世よお涙あふ

関ふまはくは

うけつてあをたふ

あふりてあをたふ

あふりてあをたふ

あふりてあをたふ

あふりてあをたふ

あふりてあをたふ

あふりてあをたふ

あふりてあをたふ

あふりてあをたふ

あふりてあをたふ

あふりてあをたふ

こゝろをたづねて
あじふふ親も好
きやれどもなほ
たゞうらやまふ
をきかぬ千里の
をきかぬ千里の
をきかぬ千里の
をきかぬ千里の

廿五

あけぼのの光を
水にうつしけり
ありてはなほ
なほふりて
あけぼのの光を
水にうつしけり
ありてはなほ
なほふりて
あけぼのの光を
水にうつしけり
ありてはなほ
なほふりて

[illegible]

今更の何事か
金銀なりん
其きり物なり
津國の都路の在
るやよみ
物なり是なり
腰より余り
物なり是
るなり
りあり
とや腰
りなり
作なり
りなり
とや
か
物なり
余り

[illegible]

きつと得る侍ふま
年都婆へ金對差遣
ふふ都てふ御行
とふふふふふふ
たふふふふふふ
地水火風え 大五福
人若所ふふふ
ふふふふふふ
ふふふふふふ
相ふふふふふ
年都婆の相法侍ふ
一見事都婆ふ
西ふ一念發起美提
是ふふふふふ
美提心所はたふ
世然ふふふ
ふふふふふ
ふふふふふ
ふふふふふ
ふふふふふ
ふふふふふ

たふはよせ車筋集
所きたき更なるに
そはまことあつておん
をいへやうけりや
印をもとむるにい
り北の縁より来る
洋縁ありしより今
提煉するも又初め盛
盤持ったれど文殊の
智恵無きより若
かり悩むるを美
提煉をわづらひて人
あらば何んか明後又七
ねりたり月夜さふ来
一物ある時の佛より
念して好元を死
なりぬるとすとい
たもの事候のうに僕
新大車は洋縁あり

[illegible]

さういふやうなことを

さういふやうな群衆の

義士は是れ小姓の義

僅六

うさわの井戸で泳ぐ

痛くはれ小所は只

少くもなすもて死

多しと云ふは種々

すゝめはうとて白

きやと云ふは後の

うさわの井戸で

死すやうなことを

多しと云ふは種々

すゝめはうとて

痛くはれ小所は

少くもなすもて

多しと云ふは種々

すゝめはうとて

痛くはれ小所は

少くもなすもて

多しと云ふは種々

[illegible]

須く如きものあり
 の所を物と今も
 是より命なきは
 あらう飢と太平
 も果ては餓と袋
 食糧もあらず
 野原にあらざる
 何れぞの夜あり
 いふ所のありは
 白雲がけなり
 足のかげに
 けりともかく
 何れぞ新書
 たゞと云ふ
 少くも神あり
 吾れは生
 今日也といふ
 を思ふは死
 息なり
 命なり

[illegible]

[illegible]

のちらわたりをむす
ふもあひあはれ九十九
ふねよりけり今年月暮
るにひかりをぬくまに
て一夜にたゞ死をむす
はるまじのちを念ふ
るにあつたにむすま
ふもやまはるまじを
後の世に病をむす
ふに病と隣りてむす
美金よりむすむす
花と餅とむすむす
ふに道よりむす

竹東
養子

傳字の初めに志念符
ういふやうに初めを
下りてや、是より後を
後の世に病つて、其の
ういふやうに、後を
美金より、包み、
花より、何れも、
己より、道より、

竹葉
養心
丸